

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 4 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25284125

研究課題名(和文) 鹿児島県歴史資料の防災ネットワークの構築

研究課題名(英文) The Construction of Disaster Prevention Network for the Protection of Archives in Kagoshima Prefecture

研究代表者

丹羽 謙治 (NIWA, Kenji)

鹿児島大学・法文教育学域 法文学系・教授

研究者番号：40264460

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の主要な課題である「自然災害等に備えた、鹿児島県の資料防災ネットワークの立ち上げ」に向けての基礎づくりを行った。鹿児島県、宮崎県の一部自治体の資料保存状況を把握するとともに、鹿児島市の入来院家資料、大武文庫、谷口家資料、始良市の森山家資料などのデジタルカメラによる資料保存・目録整備、資料防災に関する研究会・講演会の開催、ホームページの立ち上げによる広報活動を実施した。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on establishing the foundation for launching the disaster-prevention network to protect archives in Kagoshima prefecture. We conducted research and surveys on the current state of preservation of archives in Kagoshima and certain parts of Miyazaki prefecture. It includes taking pictures of archives of Irikiin Family, Otake Collection, Taniguchi Family and Moriyama Family by a digital camera, and compiling an inventory of these pictures. We also organized some seminar and lectures to appeal for the need of preserving precious archives and built up a website as part of public relations activities.

研究分野：人文学

キーワード：資料防災 史料

1. 研究開始当初の背景

この20年、阪神・淡路大震災、鳥取県西部地震、新潟県中越地震、東日本大震災をはじめ、集中豪雨などによる災害が頻発している。これにより多くの人命・生活環境が奪われたが、同時に歴史資料も甚大な損失を蒙った。災害後、被災した歴史資料を修理・保全するための歴史資料ネットワークが各地で構築された。

鹿児島県においては平成22年には奄美大島を中心に集中豪雨によって多くの人命・家屋、そして歴史資料が失われた。さらに新燃岳・桜島の火山活動が活発化、台風による水害を契機として平成17年に宮崎歴史資料ネットワークが設立されたが、鹿児島県ではいまだこのようなネットワークの構築はできていなかった。

このような状況の中で鹿児島県の歴史資料の防災ネットワークを早急に整備し、今後の災害に備える必要があった。

2. 研究の目的

災害時における歴史資料の損失・損害を最小限にとどめるために、災害の発生頻度の高い鹿児島県における歴史資料保存のための「防災ネットワーク」を構築することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では4つの柱を設定し、歴史資料を災害から守る防災ネットワークを構築する。

- (1) 鹿児島県全域、特に薩摩・大隅地方における歴史資料の所在悉皆調査
- (2) 災害時における協力体制の確立
- (3) デジタルカメラによる資料の撮影・保存
- (4) 資料公開体制の構築と社会還元

大学の研究者を中心としながら、自治体・各博物館・資料館の学芸員や資料担当者と連携しながら、情報交換を重ねつつ資料防災ネットワークを構築する。

4. 研究成果

(1) 鹿児島県および宮崎県の資料状況調査

旧薩摩藩領における歴史資料の現状を把握するため、分担者に担当エリアを割り振り、資料の状況調査を行った。当初より予想されたことであるが、個々の自治体および地域によって資料の把握、郷土史家など土地の歴史の詳しい人の有無、郷土資料に対する関心の

高さにはばらつきがあることが分かった。一方で、調査者の絶対数が足りないこともあり、地域を絞り、その地域の状況に応じた資料保存の在り方を模索することにした。つまり、史料の悉皆調査をめざした当初の方針を転換し、物理的な制約を自覚したうえで、ピンポイントで資料調査を行い、いくつかのモデルケースを積み上げていくこととしたのである。

調査した地域は、鹿児島市内はもとより、垂水市、出水市、霧島市、宮崎市、都城市、黒島(三島村)、奄美大島に及ぶ。

(2) 協力体制の確立

鹿児島県下の資料館・博物館・美術館、および自治体の教育委員会(社会教育担当)などとの連携を模索した。指定管理以外の民間の資料の防災について対応する場合の困難指定管理以外の資料を学芸員が扱うことの困難や守秘義務の問題などが存在することが明らかとなった。そのような制約があるなかで、普段からの情報交換を行いつつ、資料ネットの認知度を高めていく態勢が少しずつできている。

(3) 資料保存

デジタルカメラによって資料を撮影し、大型のハードディスクに保存する作業を、期間を通じて行なった。これと同時に、目録化の作業を行なった。目録として完成したのものには、始良市森山家文書(始良市教育委員会蔵)、肝付家文書目録(科研費にて購入)、大迫家文書目録(同前)、期間内に終了しなかったものの目録化が進んでいるものに鹿児島大学農学部蔵の谷口家文書(書簡・葉書類1500点余)、鹿児島大学附属図書館の大武文庫文書(鹿児島県内の古文書の大コレクション)、同館蔵の木脇家文書がある。この他にも個人所有の文書類の目録化を行なっている。

鹿児島県入来の領主として知られる入院家文書(鹿児島県歴史資料センター黎明館寄託以外の近代文書)のうち、入院院華畔の執筆にかかる随筆、紀行などを、本科研の協力者橋口晋作氏が翻刻を行ない、後述の紙媒体の報告書に掲載した。

一方、高温多湿な鹿児島県では、資料が湿気や虫の被害を受けて癒着しているものが多く存在する。そうした資料のうち、重要と判断したものは、専門の業者に依頼して一枚ずつはがし、裏打ちをしてもらい、その後でデジタルカメラ撮影、資料保存をした(裏打を行う資料は、修復後、鹿児島大学附属図書館に寄贈を前提として所蔵者の了解を得た)。目下、このようにして修復保存した資料を、郷土史の資料として活用することを模索している段階である。

(4) 社会還元 懇話会の開催・ホームページ開設

平成26年3月9日に、江村知子氏(東京

文化財研究所文化遺産国際協力センター主任研究員)を鹿児島大学に迎え懇話会を開催した。同氏の「文化財保護の現状と課題について」と題する講演の後、鹿児島県内の学芸員、鹿児島大学教員を交えて意見交換を行った。また、平成28年3月26日には、佐藤大介氏(東北大学災害科学国際研究所准教授)を迎え、同氏による「東日本大震災5年・歴史資料保全活動の現状」と題する講演と、佐藤宏之准教授(本科研分担者)が「鹿児島資料ネットの取り組みについて」と題する講演を行い、鹿児島歴史資料ネットの現状を鹿児島大学内外にむけて報告した。

調査活動等は随時、ホームページに掲載し、他県の史料ネットの動きともども一般の人々にも情報が行きわたるよう工夫を行っている。

(5) 報告書作成

紙媒体による報告書を作成した(平成29年3月発行)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

金井 静香「北政所考 中世社会における公家女性」、『史林』99巻-1号、pp.101-145、2016、査読有

佐藤 宏之「歴史災害を防災に活かす 口永良部島新岳の噴火を事例に」、『南九州から西南諸島における総合的防災研究の推進と地域防災体制の構築』報告書、pp.119-126、2016、鹿児島大学地域防災教育研究センター、査読無

佐藤 宏之「鹿児島県歴史資料ネットワーク(準備会)の取り組みについて 成果と課題」、『全国史料ネット研究交流集会報告書』、pp.67-71、2016、査読無

深瀬 浩三「奄美群島における歴史的文化財保全のためのマッピング化 文化財地理情報データベースの利用」、『南九州から西南諸島における総合的防災研究の推進と地域防災体制の構築』報告書、pp.127-135、2016、鹿児島大学地域防災教育研究センター、査読無

丹羽 謙治「翻刻 島津久光『西の海蜃の囀』(下)」、『国語国文薩摩路』60号、pp.13-18、2016、査読無

高津 孝「『琉球産物志』の書誌的調査」、『南太平洋海域調査研究報告書』57巻、pp.61-62、2016、査読無

丹羽 謙治「島津重豪の出版 『成形図説』版本再考」、『アジア遊学 島津重豪と薩摩の学問・文化 近世後期博物大名の視野と実践』190巻、pp.35-47、2015、勉誠出版、査読無

高津 孝「蘭癖大名重豪と博物学」、『アジア遊学 島津重豪と薩摩の学問・文化 近世後期博物大名の視野と実践』190巻、pp.21-34、2015、勉誠出版、査読無

佐藤 宏之・深瀬 浩三「気候変動に強い社会システムの探索 歴史学・地理学から島嶼防災へ」、『南九州から西南諸島における総合的防災研究の推進と地域防災体制の構築』報告書(鹿児島大学地域防災教育研究センター) pp.97-104、2015、査読無

金井 静香「浄心院所蔵の鉄樹庵関係史料」、『鹿児島大学法文学部紀要 人文学科論集』81号、pp.1-18、2015、査読無

[学会発表](計10件)

佐藤 宏之「鹿児島歴史資料ネットワーク

(準備会)」、2016年3月26日、鹿児島歴史資料ネットワーク(準備会)懇話会、鹿児島大学教育学部(鹿児島県鹿児島市)

佐藤 宏之「島嶼地域の資料保全」、2016年3月19日、第二回全国史料ネット研究交流集会、郡山市市民プラザ(福島県郡山市)

佐藤 宏之「地域の歴史遺産の保存と継承について」、2016年2月2日、鹿児島大学国際島嶼教育研究センタープロジェクト報告会、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター(鹿児島県鹿児島市)

佐藤 宏之「近世南九州の気候変動と地域社会 種子島を中心に」、2015年12月12日、隼人文化研究会、鹿児島市中央公民館(鹿児島県鹿児島市)

佐藤 宏之「島嶼地域の資料保全」、2015年12月5日、「書物・出版と社会変容」研究会、鹿児島大学教育学部(鹿児島県鹿児島市)

下原 美保「なぜ、三十六歌仙絵はつくられたのか」、2015年10月17日、始良市歴史民俗資料館秋季特別展講演会、始良市歴史民俗資料館(鹿児島県始良市)

佐藤 宏之「近世種子島における気候変動」、2015年2月23日、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター「島は一つの世界 - 大隅諸島総合調査 平成26年学長裁量経費研究コアプロジェクト(島嶼)報告会」、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター会議室(鹿児島県鹿児島市)

佐藤 宏之「鹿児島歴史資料防災ネットワーク(準備会)~これまでと、これから~」、2015年2月14日、全国史料ネット研究交流集会、於野村證券神戸支店アネックスホール(兵庫県神戸市)

丹羽 謙治「地域の歴史資料防災システムの構築 資料の保存・公開・学習の循環を

つくる」、高麗大学校日本文化研究センター国際学術大会「災害と越境知:グローバル化する東アジアで考える」、2014年11月14日、於高麗大学校日本文化研究センター(韓国ソウル市)

佐藤 宏之「地域の歴史文化をどのように形成し、豊かにしていくのか」、第二回鹿児島大学防災セミナー、2013年10月2日、鹿児島大学連合農学研究棟(鹿児島県鹿児島市)

〔図書〕(計2件)

亀井 森編『井上文雄判 柳河藩歌合集』、柳川古文書館、2016、350

丹羽 謙治編『旧制鹿児島高等農林の底力』、鹿児島大学附属図書館、2015、14

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

<http://kagoshima-shiryounet.seesaa.net/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

丹羽 謙治(NIWA, Kenji)

鹿児島大学・法文教育学域 法文学系・教授

研究者番号: 40264460

(2) 研究分担者

下原 美保(SHIMOHARA, Miho)

鹿児島大学・法文教育学域・教育学系・教授

研究者番号： 20284862

金井 静香 (KANAI, Shizuka)
鹿児島大学・法文教育学域・法文学系・教授
研究者番号： 30295232

亀井 森 (KAMEI, Shin)
鹿児島大学・法文教育学域・教育学系・准教授
研究者番号： 40509816

佐藤 宏之 (SATO, Hiroyuki)
鹿児島大学・法文教育学域・教育学系・准教授
研究者番号： 50599339

深瀬 浩三 (FUKASE, Kozo)
鹿児島大学・法文教育学域・教育学系・講師
研究者番号： 50631884

高津 孝 (TAKATSU, Takashi)
鹿児島大学・法文教育学域・法文学系・教授
研究者番号： 70206770

日隈 正守 (HINOKUMA, Masamori)
鹿児島大学・法文教育学域・教育学系・教授
研究者番号： 20284862

(3) 連携研究者
なし

(4) 研究協力者
橋口 晋作 (HASHIGUCHI, Shinsaku)